

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2692700020 | | |
| 法人名 | 医療法人社団 外松医院 | | |
| 事業所名 | ハーモニーグループホーム | | |
| 所在地 | 京都府舞鶴市竹屋98-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年3月2日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年7月22日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

処遇方針・基本理念に添ったケア、地域との関係を大切に地域と共に生活していく事。
また、お年寄りに「その人らしく生きて頂く」為に、本人の持てる力を活かしたケアを行い、本人の思いを大切に自由で楽しみのある施設を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kaijokensaku.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=2692700020-00&PrefCd=26&VersionCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター |
| 所在地 | 〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル |
| 訪問調査日 | 平成26年4月21日 |

当該ホームでは、今年の事業計画の中に一人ひとりが喜怒哀楽を表せ、互いに受け止め合い家族のように過ごせる施設づくりを目指すことを掲げています。利用者が過ごしてきた生活歴を軸にできる事や楽しめる事を模索しながら、掃除や洗濯などに活躍できる機会を作ったり、開設時から毎週継続している書道では回を重ねる毎に上達され、ほとんどの利用者が参加し楽しんでいます。また手厚い人員配置の中で入浴や外出の機会を増やし利用者の豊かな暮らしへと繋げています。管理者は職員の意見を積極的に取り入れて任せ、毎月の会議では意見や情報を出し合い、ケア方針の統一を図ると共に職員の意欲の向上に繋げています。また災害時には地域の方と相互に助け合う協力体制を築いたり、よろず相談に地域の方が訪れるなど地域からの信頼も厚く良好な関係を築いています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|---|----|--|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 毎朝申し送り時に職員全員で基本理念、処遇方針を唱和し意識を促している。 | 開設時に利用者の尊重や地域との繋がりなど「和」を大切にしたい理念を作り掲げています。毎月の会議の中では利用者の生活歴や思いを大切にしたい支援となっているかや寄り添うことができているかなどを確認し振り返る機会を持ち理念に沿った支援となるよう努めています。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の行事に出来るだけ参加し、自治会にも加入している。 | 散歩時には出合った方々と挨拶を交わしたり、近隣の商店街で買えるものは利用しています。地域の方の理解は深く、自治会に場所を借り利用者で作った作品の展示会では、多くの見学者に来てもらっています。また隣に住む老人会長は事業所の玄関に花を飾り、水やりなどの世話をしてくれています。自治会の防災訓練やどんと焼きには利用者と一緒に参加するなど交流が図られています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 以前は地域の小学校の生徒を受け入れていたが現在はできておらず、運営推進会議などで自治会の方に日々の対応などお話ししている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 自治会長、老人会会長、市の介護保険課、地域包括、家族会より参加頂き、予定、現状を報告させて頂いている。 | 会議は家族会会長や自治会長、老人会長、市や地域包括支援センター職員などの参加の下に開催しています。ホームの現状や活動報告を行い、災害時の一時避難所として互いに受け入れる協力体制について話し合うなど、地域や参加者に理解と協力が得られる有意義な会議となっています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議を通じ2カ月に一回は情報交換がおこなえている。 | 運営推進会議には市の担当者の参加を得ており、ホームの実状を知ってもらっています。困難事例の相談の乗ってもらったり、人事異動があった際には挨拶に出向いています。市のグループホーム連絡会の立ち上げの際にも協力を得ており、関わる機会が多く協力関係を築いています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定義準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 原則身体拘束をしない方針であり、勉強会を行い職員の理解を深めている。 | 毎年身体拘束に関する勉強会を行い全職員に周知しています。身体拘束や言葉の制止についての職員の意識は高く、利用者が自由に過ごせるよう支援しています。年に数回言葉遣いなどで報告があった際には管理者が注意しています。今後身体拘束の範囲についての勉強会を予定しています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 勉強会や研修により職員の理解を深めている。 | | |

ハーモニーグループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 勉強会を実施し理解し活用できるようにつとめている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時に説明を行い、面会時や電話等でお話させて頂いている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時などお声かけさせて頂きお伺いさせて頂いています。 | 利用者の希望は日々の関わりの中でその都度聞き、家族の意見は面会時や家族会、運営推進会議などで聞いています。個別の意見が多く、体重管理などの希望では計画に反映すると共に全利用者のカロリーを見直したり、散歩など運動する機会を増やすなどの取り組みに繋げています。出された意見は連絡ノートに記載して職員間で情報を共有しています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 個人面談などを通じ意見を聞いている。 | 月1度の会議では全職員に意見を求めたり、職員間の連絡ノートの中でも多くの意見が出されています。また業務の中で出てきた問題点を課題に行う勉強会では、交代で担当を決めて講師を務めています。職員が意見を出せる機会を積極的に作ったことにより、考えて意見を出せる職員が増え、より良いサービスの提供に繋がっています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 勤務状況を把握し、管理者からの報告などにより給与、賞与に反映出来る様努力している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修会への参加や勉強会を積極的に進めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 施設交流を持ち、職員交換研修など行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人が不安に思う事を出来る限り軽減出来るよう聞き取り対応している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 信頼関係を築く為、初期の間はこまめに連絡を取り、相談させて頂きながら対応している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 出来るだけ多くの情報を収集し、ご本人とご家族が必要とされ、ご本人らしさを持ち続けて頂ける様努力している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の立場に立ち、思いを尊重し共に生活を送るよう処遇方針にも上げ努力しています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族と職員との関係も大切にし、関わりを持って頂くよう努めています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | ご本人がこれまで関わってこられた関係が保てるよう、希望される所へ出掛けたり、来て頂いたりして関わりが持てるよう努めています。 | 近所に住んでいた方が会いに来られた際には快く受け入れ、利用者には職員が間に入り仲を取り持っています。自宅に付き添ったり、馴染みの美容室に通えるよう職員が送迎を支援しています。個々の希望を聞いて行きたい場所に出かける個別の支援に取り組んでおり、時には家族の協力も得ながら関係が継続できるよう支援しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 合わない方もありますが、職員がその方の性格などを把握し関わりが持てるよう努めています。 | | |

ハーモニーグループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | その方の立場に立ち、気持シートなど活用しながら思いに気づけるよう努力しています。 | 入居時に利用者・家族からこれまでの暮らしの様子や1日の過ごし方などの聞いた情報を基にアセスメントを作成し、意向の把握に繋げています。思いや意向の表現ができず把握が困難な場合は利用者の表情から汲み取ったり、職員全員で記載した「私の気持ちシート」を基に意見を出し合い、本人本位に検討しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居時に出来るだけ多くの情報を収集し、入居されてからもご本人やご家族様との会話の中からも把握できるよう努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 申し送りやカンファレンスで現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 職員会議でのカンファレンスや申し送り時など意見を出しケアプランに反映している。 | アセスメントを基に介護計画を作成し、利用者や家族の言葉をそのまま記載しています。毎月の会議の中で利用者の様子や観察内容を話し合い、参加できない職員は連絡ノートを用いて意見を出しています。変化がない場合は3ヶ月毎に計画を評価し見直しています。また来所時に聞いた家族の意向をはじめ医師や看護師の指示なども反映しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録がケアプランベースになっており、その中の気づきや工夫をケアプランの見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 個別に対応できるよう心がけています。その日その時の状態や訴えに対し出来る限り受入支援出来る様心掛けています。 | | |

ハーモニーグループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 出来るだけ地域を散歩したり、挨拶などを通じて顔を覚えて頂き1人で外に出ておられる時には声かけをお願いしています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | かかりつけ医はご本人、家族様の希望をお聞きし、受診や訪問診療の支援をさせて頂いています。 | 希望のかかりつけ医を継続することは可能で、入居の際に決めてもらっています。神経内科や歯科などの専門医は馴染みのかかりつけ医を家族と受診し、家族が付き添えない場合や日頃の様子を伝える必要がある場合には職員が同行しています。協力医は週に1度の往診があり、利用者に健康上の問題が生じた場合は看護職員に相談し対応しています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 介護職は利用者の健康上気づきや変化があれば看護師に報告できている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時には医療連携室との連絡を取り、情報交換や相談が出来る様努めています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合にはご本人、ご家族にも施設で出来る事を伝えその都度考えられるように努めています。 | 看取り支援は医療が多くなると難しい状況ですが、これまでも看取りを支援しており、入居時に重度化した場合にホームで行える支援について説明しています。体調に変化が見られた際には意向を再確認し、かかりつけ医の協力の下にその都度状況を見ながら話し合い取り組んでいます。また職員が不安なく取り組めるよう管理者が夜間付き添いなどの対応をしています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルを置き、勉強会や研修を実施しています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年2回の火災訓練を行い、地域の方や家族会からも参加頂き体制を築いている。 | 年に2回昼夜を想定して行う避難訓練は初期消火や通報、避難場所への誘導などを行い、1度は消防署の指導の下に実施しています。訓練には自治会関係者の参加があると共に町の集会所やホームの2階を一時避難所として互いに受け入れることを決めており、協力体制を築いています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 処遇方針を毎日唱和し、職員の意識付けを行いプライバシー保護に対し努めている。 | 利用者は人生の先輩との思いを念頭に置いて対応するよう努めており、不適切な対応があればその都度管理者が注意をしています。職員は勉強会や会議の中でプライバシーに関する基本的なことや不適切な言葉遣いについて具体的に学んでいます。また排泄時の声掛けなどは声の大きさに配慮しています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 常にご本人の希望を聞くよう心がけ、自己決定出来ない方はご家族様と相談させていただいています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 職員優先ではなく、その方の思いを聞きいれ支援するように努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 本人が希望されるものは買物など一緒に出かけ選んで頂き好みの物を購入できるよう支援しています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 嗜好調査を行い本人の好みを把握したり、準備や片づけにもお手伝いいただいている。 | 食事はおやつ作りを含めて利用者と一緒にできるだけ手作りすることを大切にしています。畑の収穫物も用いながら下拵えや配下膳、盛り付けなどできる事に携わってもい職員も一緒に食卓に着き食事を摂っています。食事が楽しめるよう外食に出かけたり、味噌作りなども一緒に行っています。利用者の好みがかかるよう定期的に嗜好調査を行い、結果を食事作りに反映しています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 毎月の体重測定や食べておられる様子などから健康維持出来るようその方に応じた支援に努めています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | ご自分で出来る方は出来るだけ自分で行って頂き職員が確認しています、毎食後の口腔ケアも行っています。 | | |

ハーモニーグループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックシートを活用し、パターンの把握、自立に向けた支援に努めています。 | 排泄記録を参考に個々に合わせて声掛けや誘導を行いトイレで排泄ができるよう支援しています。基本的には本人の思いを大切にできるだけ布の下着で過ごせるよう支援しています。失敗が増えても安易に排泄用品の変更を行わず、会議の中で職員間で意見を出し合い、声掛けのタイミングなどを見直し、失敗の無いよう支援しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 出来るだけ自然排便を促せるよう、運動や食べ物、飲み物で予防出来る様努めています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本は1日おきとなっていますが、ご本人の希望や状況に応じて臨機応変に対応しています。 | 入浴を楽しみにしている利用者が多く、1日おきに入浴できるよう人員配置を増やして対応しています。入浴を拒む方はほとんどなく、体調や希望に合わせて毎日入りたい利用者にも対応しています。頂き物の柚子で季節湯などを楽しんでもらっています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 居室には自宅で使っておられた家具や布団を置かれたり、入眠時間もご自分のペースで入れるよう支援しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬内容に変更があると申し送り時に変更内容、目的、副作用について職員が情報共有出来るよう報告しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 嗜好品や楽しみを会話の中から見つけ支援出来る様努めています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買物や自宅などご本人の希望に合わせて出かけられるよう支援しています。 | 日々散歩や買い物に利用者が偏ることなく順番に出かけています。桜を見に様々な場所に出かけたり、初詣やあじさい園、紅葉、海へのドライブなどへ出かけています。また行きたい場所へ出かける個別の支援にも取り組んでおり、希望を聞きながら出かける機会が多く持てるよう支援しています。 | |

ハーモニーグループホーム

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入居時ご家族様とも相談し希望に合わせ財布を持って頂き買物などご自分で支払い出来る様に支援しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 電話が自室に置けるよう回線を引いていません、手紙についてもご希望があれば対応させて頂いています。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 畑や花が窓から見える位置に設置したり、ホールにも季節の花を置き季節感を取り入れる様に心がけています。 | リビングには季節の花を生け、利用者と共に作った貼り絵や習字などの作品を飾っています。利用者は掃除や洗濯などの家事をして過ごしたり、リビングに面した庭では利用者に教わりながら花や野菜を育てています。また利用者が寛げるようソファを配置したり、仲の良い人同士や思い思いに過ごせるよう配慮しています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | ご本人にとって馴染みの席はあるがどこにでも座れるよう配慮しています。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時や入居されてからも常にご本人や家族様の希望に沿って、馴染みの家具やテレビなど必要な物を入れて頂けるよう配慮しています。 | 必要な物は何でも持って来る事ができ、座り慣れた椅子や炬燵を持参したり、趣味の道具や手作りの小物類を身近に置く方など、これまでの習慣や生活スタイルに配慮した部屋作りを支援しています。部屋には電話を引くことができ、家族や友人と気兼ねなく会話を楽しむ方もいます。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ホール内はバリアフリーになっており、必要個所に手摺も設置しテーブルや椅子も歩行時手の届くところに置き安全な環境作りをしています。生活の中で出来ない事はお手伝いさせて頂き出来る事は見守りし安全に行えるよう支援しています。 | | |